

# SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール  
岩手県立水沢高等学校  
第7号 2017年10月23日 発行

## SSH 特別講義②

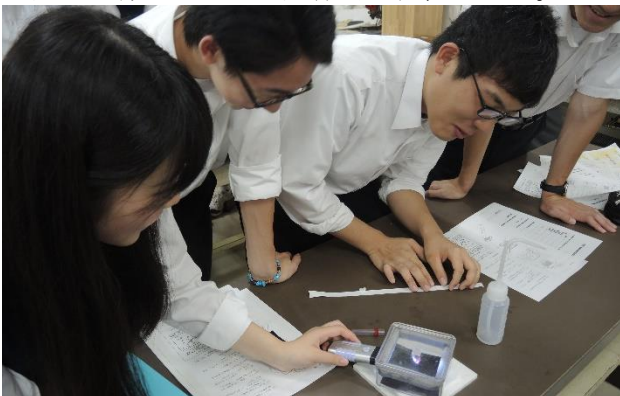
平成29年9月12日（火）

大学や研究機関、JICAなど、講師11名によるSSH特別講義を開催しました。SSH特別講義は6月につづき2回目となります。今回は1、2年生482名が対象で、2年生の理系・理数科は放射線の講義と実習を行い、放射線に関する理解を深めました。また、2年生文系と1年生は、自分の興味関心や進路志望に合わせた講義を受け、科学的な関心や進路に対する意識を高めました。

### 「放射線のはなし」

エコット政策研究センター 代表 中岡 章 先生

講演会と実験の二部構成で行った。講演会では放射線に関する様々な単位の意味を学び、線量についての正しく理解することができた。講演会で得た知識をもとに、校内の様々な場所の放射線量を測定し、身の回りの線量について具体的に把握できた。



### 「都会の隣人は冷たいのか？」

東北学院大学 教授 吉田 信彌 先生

人混みの中での生活が与える心理的影響を考察するネズミを用いた実験の結果と、急に倒れた人を助けるかどうか、その場に居合わせる人数が影響することを示す実験が紹介された。



### 「民俗行事を問い直す

～岩手県のチャグチャグ馬コを事例として～

東北学院大学 教授 政岡 伸洋 先生

チャグチャグ馬コを例に、伝統的だとされる生活文化は、政治的・社会的・経済的背景に合わせて、近代に変化・定着したものが多くあることを学んだ。



### 「SDGs と開発協力

～支援ニーズの把握から課題の解決に向けて～

JICA 東北支部 次長 三村 悟 先生

JICA が行っている SDGs (持続可能な開発) について、支援ニーズの把握から課題の解決に向けてどのような活動を行っているかについて理解を深めた。



### 「着地型観光プランを企画して地域活性化

～地域社会の活性化に役立つ大学の学び～

東北工業大学 講師 亀井 あかね 先生

地域に根ざした、地域の人が勤める着地型観光プランについて学んだ。自治体の実践例から、観光資源をどう活かしていくかについて理解を深めた。



### 「障害をもつ方の地域での暮らし」

東北工業大学 准教授 古山 周太郎 先生

多目的トイレの多様性など障害をもつ人が地域で暮らせるための設備や、障害者から見て便利・安全と好き・嫌いは必ずしもイコールではないことなどを学んだ。



### 「リハビリテーションの理解と作業療法士の役割 ～心身の健康と作業のかかわり～」

東北福祉大学 教授 佐藤 善久 先生

リハビリは楽しみながら続けて、日常生活に復帰することが第一であると知ることができた。将来選択に関わる話が多く、大変有意義であった。



### 「環境問題をどのように解決するか？」

尚綱学院大学 准教授 東 愛子 先生

環境を守るのにお金がかかると認識されていない、利益にならないから環境を守らない、経済活動から利益を得る人と、環境被害を受ける人が異なる、という問題に対して、どうしたら人間の行動を変えられるかを考えた。



### 「ドローンを用いた作物生育管理の可能性」

東北工業大学 准教授 牧 雅康 先生

農業分野へのドローンの利用について解説していただいた。空撮画像を分析するという手法により、少人数でも広い農地の生育状態等の分析が可能になることを学んだ。



### 「在宅看護とは ～『いつまでも自宅で過ごしたい』 の思いに応えるために～」

東北福祉大学 准教授 菅原 千恵子 先生

現在、世界一高齢化が進んでいる日本で、在宅看護がさらに重要な位置を占めるようになり、その中で看護師はこれまでよりもさらに高い専門性を求められるようになることについて理解を深めた。



### 「フルーチェはなぜ固まるの？ ～固まる食べ物の作り方～」

尚綱学院大学 教授 赤坂 和昭 先生

フルーチェはなぜ固まるのかという身近な食べ物の疑問を、栄養学的に解説していただいた。サンプルを示し、カルシウム、マグネシウム、ペクチンの関係が大切であることや、食品が固まることの共通した性質、構造について学んだ。

